

チーム えがお

【学校教育目標：たくましく生きる児童の育成】

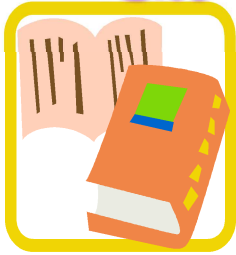
・やさしい子 ・考える子 ・元気な子 ・やりぬく子



発行者：校長 岡田 達也

～ えがお かがやき がんばる 学校 おうえんだん「チーム北川」～

「なかよし読書」読書を通じてのふれあい!



7月1日(水)のロングの昼休みに、なかよし班で読み聞かせをする第1回目の「なかよし読書」を開催しました。この取組は、上学年(4～6年生)の子が下学年(1～3年生)の子に読み聞かせをする、ペア読書です。

上学年の子は、読み聞かせをする本を選び、読み聞かせの練習をしていました。その甲斐あって、本番では、上学年の子は少し緊張しながらも、上手に読み聞かせを行うことができました。下学年の子からは、「楽しかった。」「また読んでほしい。」という、うれしい感想が返ってきました。

この取組には、こんな意義が込められています。

☆上学年の子どもは、読み聞かせをする相手の学年にあった本を選ぶなど、相手意識をもって本に接する機会をもつことができます。

☆下学年の子どもは、上級生に読み聞かせをしてもらうことで、本の楽しさを味わうことができます。

☆併せて、上学年への感謝の気持ちを持ち、その思いを伝えようとするすることができます。

★異学年による本の読み聞かせを通して、本の楽しさを共有することによって、相手の気持ちを考えたり、感謝の気持ちを伝え合ったりして、温かな関係を築くことになります。



ちょっとした心遣いがうれしい 今日この頃です!

先週、校内を回っているときに、5年生の学級で楽しそうな声が聞こえてきました。その理由は、担任の誕生日を祝う歌を歌い、メッセージ集を渡していたのです。

担任と子どもたちの笑顔が素敵だったので、カメラを向けてしまいました。見ていた私も、朝からとっても温かな気持ちになりました。子どもであれ、大人であれ、周りの人からやさしい心遣いを受けるとうれしいものですね。

こうした心遣いも、素直な心の現れだと思います。素直な心は、誰かの言うことに単に従うというものではなく、相手の言動をきちんと受け止め、そこに込められた思いや願いを正しく理解し、自分はどうするべきかをしっかりと考える心のことです。その過程では、自分を客観的に見る力も育ちます。そして、このことは心の強さにもつながっていきます。だから、成長することができるのです。

素直な心には、いろいろなものを吸収する力があり、それが柔軟性や寛容さ、包容力、前向きさ、自己を認知する力などを育てていくと言えます。近年、教育に限らず様々な分野で、素直な心や素直さの大切さが叫ばれている理由は、こうしたことからではないでしょうか。

